

# 「ISO 統合マネジメントシステムの運営管理」 の特集にあたって†

福丸 典芳\*

## 1. 特集の経緯と背景

ISO 9001(品質マネジメントシステム)が1987年にマネジメントシステム規格としてはじめて開発され、その後ISO 14001(環境マネジメントシステム)、OHSAS 18000(労働安全衛生マネジメントシステム)、ISO 27001(情報セキュリティマネジメントシステム)、ISO 22000(食品安全衛生マネジメントシステム)に関するマネジメントシステムの規格が次々と開発されてきている。これに伴いこれらの規格を使用した第三者認証制度が設立され、組織がこれらの制度を利用してきている。

これらの規格を適用する組織は、個別のマネジメントシステムを構築し、認証を受けている。しかし、組織のマネジメントシステムを個別に運営管理することは、組織のマネジメントシステムの運営上から非効率である。効率性を考えれば、組織が適用しているマネジメントシステムを一体化して運営管理することが望ましい。

これに対応するためには、各種のマネジメントシステム規格の統合を行うことが効率的である。このため、統合にあたっての課題とその解決方法および現在の運営管理の特徴について取り上げ、論説してもらうこととする。

†平成22年5月27日 受付

\* (有)福丸マネジメントテクノ

連絡先：〒206-0802 東京都稲城市東長沼1002-6(自宅)

## 2. 本特集の構成

構成は、実務家の立場から統合マネジメントシステムの考え方とその運営方法に関する提言、各産業分野におけるマネジメントシステムの課題およびその解決法、並びに運営管理における特徴に関する産業界の4社の事例紹介、および本学会における「QMS有効活用及び審査研究部会」の第2期研究活動の研究報告である統合審査技術について解説をしてもらう。

### 2.1 実務家からの提言

#### 「ISO マネジメントシステムの統合の課題とその解決法」

多くの企業指導の経験、ISO マネジメントシステム規格の開発経験、および各種のISO セミナの講師の経験などを生かして、マネジメントシステムを統合する際の課題とその解決法について論じている。

### 2.2 産業界の事例紹介

#### ① 「医療分野におけるISO 9001とISO 27001の統合と運営管理」

医療分野という専門的な分野でのISO認証取得後のQMS、ISMSそれぞれを維持する上での問題点について、ISO認証取得の本来の目的を考え直して、改善を図っている事例である。特徴は、QMS要素およびISMS要素について、プロセス指向で業務を可視化したことであり、効果を上げている。

#### ② 「統合マネジメントシステム導入が地質汚染調査および浄化に与えるもの」

統合マネジメントシステム統合において、人材を重要な源として位置づけ、品質を確保するために必要な完全浄化を保証する技術力および環境影響に関する専門知識(自然科学, 地学, 化学, 土木工学)などに関して、従業員への教育・訓練を行い、力量向上を図ることで効果的な運営管理を行っていることが特徴である。また、サイト別品質・環境管理プロセスを構築し、品質および環境マネジメントシステムを一体化した運営管理によって、成果を上げている。

### ③ 「ISO 9001 と ISO 14001 の統合と運営管理」

QMS と EMS の事務局を今後の ISO マネジメントシステム規格の導入を考慮して MS 推進室に統合するとともに、委員会組織の効率化を図っていることが特徴である。MS マニュアルは、3 編構成(共通編, 品質編, 環境編)とし、文書化に当たっては業務機能展開の考え方を取り入れている。また、品質および環境の両方を内部監査できるような監査員の育成、並びにマネジメントレビューでは、プロセスの強み・弱みに着目した分析を行い、成果を上げている。

### ④ (株)エルグにおける「ISO 統合マネジメントシステムの運営管理」

中小企業の特徴を生かして ISO 9001 と ISO 14001

との統合を行っていたが、現在は ISO 9001 とエコアクション 21 を統合したマネジメントシステムの運営管理を行っていることが特徴である。この運営管理においては、社長が率先して ISO に取り組んでおり、品質・環境マネジメントシステムの活動状況を監視している。特徴的な活動としては、社員が理解しやすいように、マニュアルは文章を少なくし、図、絵、およびカラーの使用による見える化を図っており、成果を上げている。

### 2.3 QMS 有効活用及び審査研究部会の研究成果 「マネジメントの原則から見た統合審査技術」

本研究では、組織の目的・目標を達成するためのマネジメントシステムを品質・環境の両側面を考慮した一つのマネジメントシステムとしてとらえている。そのマネジメントシステムが、マネジメントの原則を基本に構築され、運用されているかという観点で、品質および環境マネジメントシステム規格に基づき審査するとより有効な審査になるという考え方で事例研究による分析を行い、審査プロセス FMEA および審査シナリオ表の提言を行っている。